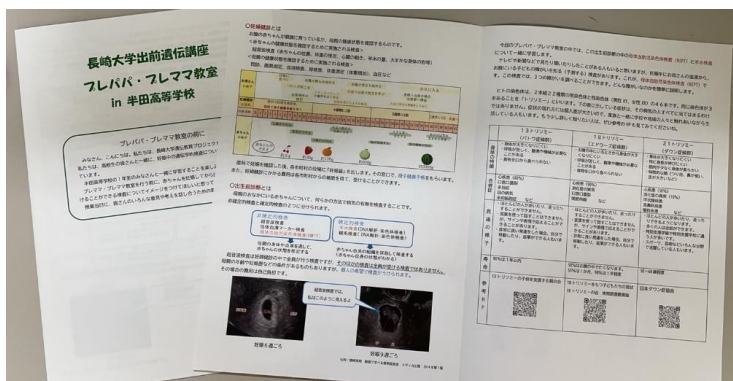


2022年2月 愛知県立半田高等学校1年生 家庭基礎特別授業（Web 授業）

愛知県立半田高等学校の1年生の皆さんと家庭基礎の授業で「長崎大学出前遺伝講座プレパパ・プレママ教室～妊娠中の遺伝学的検査について考えてみよう～」をテーマに一緒に学習しました。2月1、4、7、8日の4日間8クラスで実施しました。コロナウイルス対策のため、ZOOMを使用しての遠隔授業となりました。半田高校の授業時間に合わせ、遠隔授業は1時限で収まるシンプルな内容に調整するため、事前学習として家庭科の授業で赤ちゃんの育ちと妊婦健診について、非確定的検査と確定的検査、母体血胎児染色体検査（NIPT）の対象疾患である13・18・21トリソミーの特徴について学習してもらいました。



授業当日は、「どんな意見も否定しない」、「発言したくない場面では発言しない権利がある」という学習の約束を確認し、生徒はそれぞれが結婚して夫婦に新しい命が授かったという前提でプログラムが始まります。授業当日は、「どんな意見も否定しない」、「発言したくない場面では発言しない権利がある」という学習の約束を確認し、生徒はそれぞれが結婚

して夫婦に新しい命が授かったという前提でプログラムが始まります。事前学習を復習しながら、非確定的検査：NIPTと確定的検査：羊水検査を学ぶことを説明しました。NIPTがどのような検査か、現在の検査対象が35歳以上であることの意味、検査の正確性について学習しました。また、検査を受ける10～14週の時期の赤ちゃんの大きさを、プレートをお腹にあてて確認しました。

模擬遺伝カウンセリングとして、武田先生の妊娠中に考えたことをなどの体験談を特別に聞かせていただきました。妊婦やその夫の気持ちをイメージしながら、NIPTを受検したいか、したくないか、迷っているか、最初の素直な気持ちに向き合ってもらい、ワークブックにまとめてグループで共有しました。「早めに準備ができるから前もって赤ちゃんの状態を知りたい」、「命の選別をしてしまいそうだから、受けたくない」、「赤ちゃんの状態を知ってもどうしたらいいかわからない」等様々な意見交換ができました。グループ間での意見交換の後、最終意思決定をして、棒くじを使って模擬検査を行いました。



NIPTで陽性だとわかった場合、NIPTは非確定的検査であるため確定検査が必要となります。今回は、羊水検査を確定的検査としてどのような検査なのか学習しました。学習のためNIPTの結果が“陽性”であると仮定して、

羊水検査を受検したいかどうか、自分の思いと向き合ってもらいました。そして再度グループ間で意見を共有しました。羊水検査は、NIPTと異なり、お母さんや赤ちゃんへのリスクが伴います。「痛い思いをするのは奥さんだから…」と話している男子生徒の声も聞こえてきました。

ディスカッションの後、羊水検査の最終意思決定をしてもらい、羊水検査はサイコロを用いて模擬検査を行いました。模擬検査を受検して、「陰性だとわかって安心した」「陽性だとわかって事前の準備ができるとしても不安は残る」などの思いを共有しました。羊水検査の結果から、お腹の赤ちゃんに病気があるとわかった場合、どのような選択が続くのかについて一緒に考えました。胎動を感じながら中絶について考える状況や障がいのある子どもを育てていくことを決める



気持ちのどちらも想像してもらいました。そして検査について振り返り、検査でわかるのは病名のみで、その子が「どのように育つか」は知ることができないこと、同じ病気であっても人の育ちはそれぞれ違うことを確認しました。ヒトの多様性を学ぶ「特徴ゲーム」で楽しみながら特徴の組み合わせの多様性・唯一性を学びました。



プログラムを通して、難しい選択をしてもらいましたが、最後に 3000g の新生児人形を抱っこし、赤ちゃんを抱っこした時の優しい気持ちも体験してもらいました。生徒さんの緊張も緩み、笑顔で明るい声がたくさん聞こえながら赤ちゃんを抱っこしている様子が印象的でした。

私たちも家庭科で授業する初めての試みでしたが、武田先生のご協力やコーディネートのもと、当事者意識と持つという家庭科の学習目標に沿って、充実した意見交換ができていたと思います。カメラ越しに少しずつ聞こえてくる皆さんの意見に感心しながら、その場に行き一緒に学びたかった思いでいっぱいになりました。生活に密着した科目である家庭科の学習が、生徒さんの専門分野の入り口となることを私たちも願っております。今回の実践を通して、家庭科やその他保健体育や道徳など様々な教科の学習教材になることを実感できました。

半田高校校長 齋藤先生、家庭科 武田先生、
1年生の生徒の皆さん、
本当にありがとうございました。

